

書肆侃侃房短歌カタログ

31文字 の 世界

2023.2

TAKE FREE

短歌に出会い、短歌に親しむために、

短歌をびっしり詰めこんでみました。

あなたの好きな短歌に出会えますように。

31 文字の世界

書肆侃侃房短歌カタログ

contents

- 2 ひとさらい 笹井宏之第一歌集
- 3 てんとろり 笹井宏之第二歌集
- 4 短歌ムック ねむらない樹
- 8 笹井宏之賞
- 12 新編歌集シリーズ
- 14 短歌タイムカプセル
- 16 現代短歌クラシックス
- 22 新鋭短歌シリーズ
- 44 現代歌人シリーズ
- 58 ユニヴェール
- 63 エッセイ・歌書

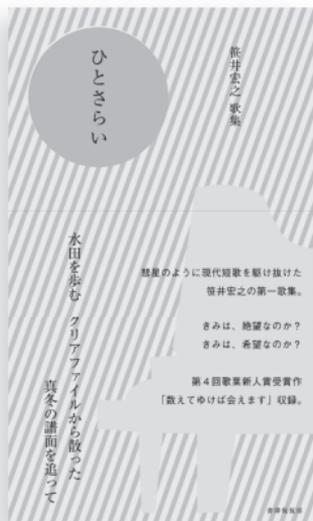
ひとさらい 笹井宏之第一歌集

水田を歩む クリアファイルから散った真冬の譜面を追って

「はなびら」と点字をなぞる ああ、これは桜の可能性が大きい

拾ったら手紙のようで開いたらあなたのようなでもう見れませんか

2009年1月、26歳の若さでこの世を去った佐賀の天才歌人、笹井宏之の第一歌集。やさしさと切ないほどの透明さを兼ね備えた作品は短歌というジャンルを超え、今もなおファンを増やし続けています。



A5判変形、並製
本体1200円+税
978-4-86385-046-0

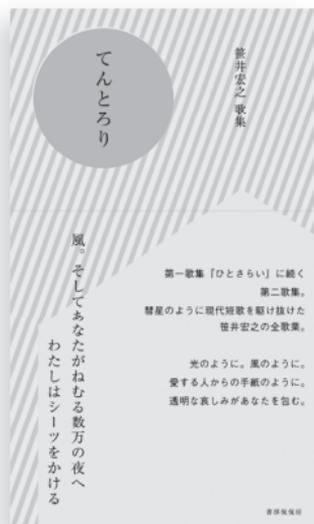
てんとろり 笹井宏之第二歌集

風。そしてあなたがねむる数万の夜へわたしはシーツをかける

雨といふごくやはらかき弾丸がわが心象を貫きにけり

たましいのやどらなかつたことばにもきちんとおとむらいをだしてやる

歌人笹井宏之の不動の地位を築いた
第二歌集で、惜しまれつつ忽然とこ
の世を去った彼の歌は、その後につ
づく若い歌人の目標となっています。



A5判変形、並製
本体1300円+税
978-4-86385-047-7



vol.1

巻頭エッセイ 穂村弘

特集1 新世代がいま届けたい現代短歌100
伊舎堂仁×大森静佳×小島なお×寺井龍哉

特集2 ニューウェーブ30年
荻原裕幸×加藤治郎×西田政史×穂村弘

対談 林あまり×東直子 伊波真人×滝口悠生

作品 蒼井杏 石井僚一 井上法子 宇都宮敦
大滝和子 岡崎裕美子 岡野大嗣 木下龍也
小池純代 佐々木朔 鈴木美紀子 武田穂佳
原田彩加 藤島秀憲 法橋ひろく 枳野浩一

176ページ 1300円+税
978-4-86385-326-3



vol.2

巻頭エッセイ 俵万智

特集1 第1回 笹井宏之賞発表
大賞 柴田葵「母の愛、僕のラブ」

選考座談会 大森静佳×染野太郎×永井祐
×野口あや子×文月悠光

特集2 ニューウェーブ再考
川野里子、水原紫苑、平岡直子、柳本々々 ほか
座談会 俳句と短歌と
生駒大祐×大塚凱×堂園昌彦×服部真里子

192ページ 1400円+税
978-4-86385-353-9



vol.3

巻頭エッセイ 東直子

特集1 映画と短歌
対談 木下龍也×町屋良平/尾崎まゆみ×門脇篤史
座談会 杉田協士×矢田部吉彦×東直子×寺井龍哉
「映画『ひかりの歌』をめぐるって」

特集2 短歌の言葉と出会ったとき
作品 尼崎武 今橋愛 魚村晋太郎 内山晶太
小佐野弾 紀野恵 國森晴野 駒田晶子
鈴木加成太 田口綾子 中山俊一 西村曜
初谷むい 花山多佳子 屋良健一郎 柴田葵

176ページ 1300円+税
978-4-86385-370-6

vol.4

- 巻頭エッセイ 奥村晃作
 特集1 第2回 笹井宏之賞発表
 大賞 鈴木ちはね「スイミング・スクール」
 榎原紘「悪友」
 選考座談会 大森静佳×染野太朗×永井祐
 ×野口あや子×長嶋有
 特集2 短歌とジェンダー
 座談会 川野芽生×黒瀬珂瀾×山階基×佐藤弓生
 対談 岡野大嗣×国府達矢



216ページ 1500円+税
 978-4-86385-389-8

リニューアル号！

vol.5

- 巻頭エッセイ 大前粟生
 特集1 短歌における「わたし」とは何か？
 座談会 宇都宮敦×斉藤斎藤×花山周子
 井上法子 大辻隆弘 荻原裕幸 柴田葵
 山内志朗 吉田恭大
 特集2 学生短歌会からはじまった
 「学生短歌会アンソロジー」収録
 特集3 くどうれいん/工藤玲音
 新作エッセイ・短歌・俳句
 対談 くどうれいん×スケラッコ



176ページ 1,300円+税
 978-4-86385-408-6

vol.6

- 巻頭エッセイ 小野和子
 特集1 第3回 笹井宏之賞発表
 大賞 乾遥香「夢のあとさき」
 選考座談会 大森静佳×染野太朗×永井祐
 ×野口あや子×千葉雅也
 特集2 黒瀬珂瀾 自筆年譜・自伝的エッセイ・自選百首
 特集3 現代川柳の衝撃
 座談会 小池正博×瀬戸夏子×なかはられいこ
 特集4 2020年の収穫アンケート
 東直子 柗野浩一 水原紫苑 ほか
 特集5 『林檎貫通式』を読む
 小原奈実 杉田俊介 ひらりさ
 対談 神田伯山×森本平



208ページ 1500円+税
 978-4-86385-442-0



240ページ 1500円＋税
978-4-86385-474-1

vol.7

巻頭エッセイ ホー・ツーニエン

特集1 葛原妙子

高橋睦郎 川野里子 水原紫苑 佐藤弓生 尾崎まゆみ 井上法子

小原奈実 石川美南 紀野恵 吉川宏志 睦月都 ほか

「女人短歌」とは何だったのか？

濱田美枝子 佐伯裕子 内野光子 ほか

特集2 川野芽生

往復書簡 川野芽生×山尾悠子

新作50首 大前栗生



216ページ 1500円＋税
978-4-86385-508-3

vol.8

巻頭エッセイ 水溜真由美

特集1 第四回笹井宏之賞発表

大賞 桜沢知世「ノウゼンカズラ」

選考座談会 大森静佳×染野太郎×永井祐×野口あや子×神野紗希

特集2 渡辺松男の世界

新作73首/自選100首/インタビュー ほか

特集3 2021年の収穫

東直子 松村正直 水原紫苑 藪内亮輔 ほか

新作30首 井戸川射子



240ページ 1500円＋税
978-4-86385-534-2

vol.9

巻頭エッセイ 永井玲衣

巻頭リレー共作 上坂あゆ美×岡本真帆

特集 詩歌のモダンイズム

三枝昂之 佐藤弓生 石原深予 松澤俊二 寺井龍哉 高良真実 石原深予

濱田美枝子 黒岩康 瀬口真司 黒瀬珂瀾 川本千栄 吉川宏志 水田宗子

藤井貞和 北川透 大川内夏樹 菊地利奈 佐藤雄一

小特集 左川ちか

座談会 島田龍×蜂飼耳×鳥居万由実

川野芽生 マーサ・ナカムラ 小津夜景 西島伝法 中保佐和子

小澤京子 西崎憲 高原英理 高遠弘美 木村朗子 内堀弘

田中綾 ホルカ・イリナ 中村多文子

新作30首 谷崎由依 櫻木みわ

山中智恵子座談会 水原紫苑×川野里子×大森静佳

巻頭表現 大白小蟹

特集1 第5回笹井宏之賞発表

大賞

左沢森「似た気持ち」／瀬口真司「パーチ」

選考座談会 大森静佳×染野太朗×永井祐
×野口あや子×Moment Joon

特集2 15年目の笹井宏之

第一歌集『ひとさらい』刊行から15年。未発表の短歌、小説、俳句／川柳、エッセイ、詩を初公開する永久保存版。

座談会 穂村弘×東直子×土岐友浩

インタビュー 簡井孝司 簡井和子

論考 瀬戸夏子 山田航 江戸雪

エッセイ 宇都宮敦 伊藤一彦 荻原裕幸

吉川宏志 齊藤斎藤 しんくわ

生田亜々子 今泉洋子 森戸孝子

平原奈央子 須藤歩実 森山希代子

アンケート 笹公人 戸田響子 伊舎堂仁

橋川志保 水野葵以 笹川諒

特集3 2022年の収穫アンケート

水原紫苑 柗野浩一 千葉聡 数内亮輔

石川美南 尾崎まゆみ 松村正直



272ページ 1500円＋税 978-4-86385-562-5

264ページ 1800円＋税
978-4-86385-390-4

短歌ムック「ねむらない樹」別冊

現代短歌のニューウェーブとは何か？

現代短歌の重要潮流が、はじめて俯瞰できる一冊

これがすべての始まりだった／時代をひもとく／同時代を生きる
短歌ヴァーサス、歌葉のころ／ニューウェーブ以降の短歌秋月祐一 阿波野巧也 石川美南 井辻朱美 大井学 大辻隆弘 大森静佳
荻原裕幸 加藤治郎 川野里子 紀野恵 栗木京子 黒瀬河潤 小川久美子
佐藤弓生 しんくわ 染野太朗 田中槐 谷川由里子 千葉聡 寺井龍哉
永井祐 中島裕介 初谷むい 花笠海月 早坂類 林あまり 東直子 平岡直子
藤原龍一郎 穂村弘 松村正直 水原紫苑 陸月都 柳本々々 山田航 吉川宏志

笹井宏之賞について

佐賀出身の早逝の歌人笹井宏之さんの没後 10 年 (2019 年 1 月 24 日) を機に創設した短歌の新人賞です。

大賞と個人賞を授与し、短歌ムック「ねむらない樹」で授賞発表を行っています。

副賞は歌集の出版で、新たな才能がこの賞から飛び立っています。



笹井宏之賞

<http://www.kankanbou.com/sasaiaward/>

笹井宏之とは

1982 年佐賀県生まれ。2004 年より短歌を作りはじめ、2005 年「数えてゆけば会えます」で第 4 回歌葉新人賞を受賞。

2009 年 1 月 24 日、26 歳で永眠。

歌集に『ひとさらい』『てんとろり』『八月のフルート奏者』、作品集に『えーえんとくちから』。



2007.03.18



笹井宏之賞 歴代受賞作



第1回 (2019年)

大賞 柴田葵「母の愛、僕のラブ」

大森静佳賞 谷川由里子「シー・ユー・レイター・また明日」／染野太朗賞 浪江まき子「刻々」／永井祐賞 阿波野巧也「凸凹」／野口あや子賞 八重樫拓也「墓を蹴る」／文月悠光賞 井村拓哉「揺れないピアス」

第2回 (2020年)

大賞 鈴木ちはね「スイミング・スクール」

榊原紘「悪友」

大森静佳賞 曾根毅「何も言わない」／染野太朗賞 乾遥香「ありとあらゆる」／永井祐賞 橋爪志保「とおざかる星」／野口あや子賞 渡邊新月「秋を過ぎる」／長嶋有賞 小俣鯨太「ナビを無視して」

第3回 (2021年)

大賞 乾遥香「夢のあとさき」

大森静佳賞 瀬口真司「KILLING TIME」／染野太朗賞 嶋稟太郎「羽と風鈴」／永井祐賞 川村有史「退屈とバイブス」／野口あや子賞 手取川由紀「オレンジ」／千葉雅也賞 向井俊太「ここにはいない」

第4回 (2022年)

大賞 梶沢知世「ノウゼンカズラ」

大森静佳賞 浦田悠「こわくなかった」／染野太朗賞 佐原キオ「みづにすむ蜂」／永井祐賞 上牧晏奈「ふあんふあん」／野口あや子賞 手取川由紀「直線」／神野紗希賞 安田茜「遠くのことや白さについて」

第5回 (2023年)

大賞 左沢森「似た気持ち」

瀬口真司「パーチ」

大森静佳賞 中村育「風は吹く、無数の朝」／染野太朗賞 手取川由紀「羽化のメソッド」／永井祐賞 野川りく「週上 あるいは三人の女」／野口あや子賞 八重樫拓也「晩年」／Moment Joon賞 橙田千尋「Liminal」

母の愛、僕のラブ

柴田葵

128ページ 1800円＋税 978-4-86385-387-4



バーミヤンの桃ぱっかんと割れる夜あなたを殴れば店員がくる
飽きるほど誕生日してめくるめくまっ白な髪を抱きしめあおう

予言

鈴木ちはね

160ページ 1900円＋税 978-4-86385-404-8



たいようが食べたいようと言いあえば遠くで夏が終わってしまう
堤防を上りつめたらでかい川が予言のように広がっていた

悪友

榊原紘

128ページ 1800円＋税 978-4-86385-405-5



ことばから補助輪が外されてなお漕ぎ出した日のことを言うから
雪の染みた靴から君が伸びている そんな顔で笑うやつがあるか

地上絵

橋爪志保

四六判、並製、144ページ 1700円＋税 978-4-86385-456-7



I am a 大丈夫 ゆえ You are a 大丈夫 too 地上絵あげる
ボーダーを着てボーダーの服買いに行くのはながいきのおまじない

羽と風鈴

嶋稟太郎

四六判、上製、160ページ 2000円＋税 978-4-86385-501-4



それぞれの羽を揺らして風鈴はひとつの風に音を合わせる
地上までまだ少しある踊り場に桜の花が散らばっていた

結晶質

安田茜

四六判変形、上製、192ページ 2000円＋税 978-4-86385-566-3



戴冠の日も風の日もおもうのは遠くのことや白さについて
表情でいいたいことはわかるから花のつるぎを手放しなさい

葛原妙子歌集 川野里子編

四六判、上製、296ページ
本体2000円＋税 978-4-86385-491-8

他界より眺めてあらばしづかなるのよきゆふぐれの水

早春のレモンに深くナイフ立つるをとめよ素晴らしき人生を得よ

わがうたにわれの紋章のいまだあらずたそがれのごとくかなしみきたる

四六判、上製、296ページ
本体2000円＋税
978-4-86385-491-8



戦後短歌史に燦然と輝く歌人・葛原妙子。

すべての歌集から1500首を厳選、
葛原の壮大な短歌世界が堪能できる
一冊。

策・大森静佳 川野芽生 平岡直子

短歌の韻律に乗せて人間存在を徹底的に問うた歌人・山中智恵子。

代表歌集『紡錘』『みずかありなむ』『夢之記』を完本で収録。山中智恵子の全貌を見渡せる1600首を収める。

葉・小島なお 瀬戸夏子 藪内亮輔

山中智恵子歌集 水原紫苑編

行きて負ふかなしみぞここ鳥髪とりかみに雪降るさらば明日も降りなむ
うつしみに何の矜持ぞあかあかと蠍座さそりは西に尾をしづめゆく
わが生みて渡れる鳥と思ふまで昼澄みゆきぬ訪ひがたきかも

以下、続刊予定

『前川佐美雄歌集』（三枝昂之編）

『塚本邦雄歌集』（尾崎まゆみ編）



四六判、上製、296ページ

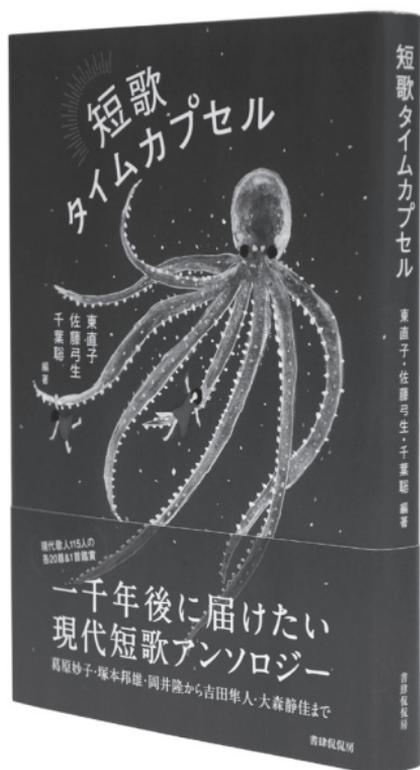
本体2100円＋税

978-4-86385-531-1

短歌タイムカプセル

東直子・佐藤弓生・千葉聡 編著

葛原妙子・塚本邦雄・岡井隆から吉田隼人・大森静佳まで、今、読まれるべき現代歌人115人の作品二十首選。さらに編者による一首鑑賞を収録。戦後の現代短歌を見渡す画期的アンソロジー。



一千年後に届けたい、
現代短歌アンソロジー

四六判、並製、248ページ

本体1500円＋税

978-4-86385-300-3

たましひの薄衣

菅原百合絵

四六判、上製、144ページ
本体2000円＋税 978-4-86385-561-8



ほぐれつつ咲く水中花——ゆつくりと死をひらきゆく水の手の見ゆ
ネロ帝の若き晩年を思ふとき孤独とは火の燃えつくす芯
たましひのまとふ薄衣うすぎぬほの白し天を舞ふときはつかたなびく

Lilith 川野芽生



四六判、上製、168ページ
本体2000円＋税 978-4-86385-419-2

アヴァロンへアーサー王をいくたびも送る風あり千の叙事詩に
天上に竜ゆるりると老ゆる冬われらに白き鱗しろくぼは降る
harass とは獵犬をけしかける声 その鹿がつかればてて死ぬまで

現代短歌クラシックス

四六判変形、並製

装幀デザイン：加藤賢策（LABORATORIES）

手に入りづらくなってしまった貴重な歌人の歌集復刊。
スリムで美しい、のちの世に伝えたい短歌の愛蔵版



01 林檎貫通式

飯田有子

190ページ、本体1500円＋税
978-4-86385-402-4



婦人用トイレ表示がきらいきらいあたしはケンカ強い強い
たすけて枝毛姉さんたすけて西川毛布のタグたすけて夜中になで回す顔

02 砂の降る教室 石川美南

190ページ、本体1500円＋税
978-4-86385-406-2



カーテンのレースは冷えて弟がはぶすぶるぐ、とくしやみする秋
とてつもなく寂しき夜は聞こえる もぐらたたきのもぐらのいびき

03 四月の魚 正岡豊

128ページ、本体1400円＋税
978-4-86385-407-9



夢のすべてが南へかえりおえたころまばたきをする冬の翼よ
きみがこの世でなしとげられぬことのためやさしくもえさかる舟がある

04

世界が海におおわれるまで 佐藤弓生

112ページ、本体1400円＋税
978-4-86385-430-7

秋の日のミルクスタンドに空瓶のひかりを立てて父みな帰るとうめいなかとのかたち天空も公孫樹の黄きいを踏んでみたくて

05

木曜日 盛田志保子

128ページ、本体1400円＋税
978-4-86385-432-1

口に投げ込めばほどけるすばらしきお菓子のような疑問がのこる雨だから迎えに来てって言ったのに傘も差さず裸足で来やがって

06

微熱体 千葉聡

136ページ、本体1500円＋税
978-4-86385-463-5

だぶだぶの闇をたたんでゆく波の音が二人に染みこんで、朝あす明日消えてゆく詩のように抱き合った非常階段から夏になる

07 O脚の膝

今橋愛

208ページ、本体1700円＋税
978-4-86385-465-9

「水菜買いにきた」／三時間高速を飛ばしてこのへやに／みずな／かいに。
そこにいるときすこしさみしそうなとき／めをつむる。あまい。そこにいたとき

08 寒気氾濫

渡辺松男

198ページ、本体1900円＋税
978-4-86385-482-6

橋として身をなげだしているものへ秋分の日雲の影過ぐ
つくづくとメタフィジカルな寒卵えんぶだい閻浮提容れ卓上に澄む

09 あの日

染野太郎

198ページ、本体1600円＋税
978-4-86385-497-0

カーテンに春のひかりの添う朝あしたはじめて見たり君の歯みがき
含み笑いをしながら視線逸らしたる生徒をぼくの若さは叱る

10 窓、その他

内山晶太

198ページ、本体1600円＋税
978-4-86385-557-1



たんぽぽの河原を胸にうつしとりしずかなる夜の自室をひらく
口内炎は夜はなひらきはつあきの鏡のなかのくちびるめくる
少しひらきてポテトチップを食べている手の甲にやがて塩は乗りたり

11 緑の祠 五島諭

144ページ、本体1500円＋税
978-4-86385-558-8



海に來れば海の向こうに恋人がいるようにみな海をみている
ミュージックビデオに広い草原が出てきてそこに行きたくなった
いつだって辛いといえばそうだけど朝靄に打ちふるえる漁船

わたしの嫌いな桃源郷 初谷むい

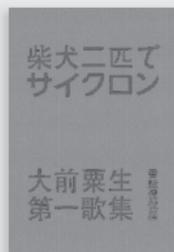
四六判、上製、144ページ
本体1700円＋税 978-4-86385-519-9



それはたとえば、百年育てて咲く花を信じられるかみたいな話？
そばにいるだけがすべてじゃないぜ月は光るだけがすべてじゃないぜ
もちもちの愛 もちもちの逃避行 どこまでを希望と呼ぶのだろう

柴犬二匹でサイクロン 大前粟生

四六判、並製、144ページ
本体1700円＋税 978-4-86385-514-4



お互いにワンパンし合う関係で倒れた場所を花園とせよ
この痣を月に結んで大丈夫とびびざげりの妄想をする
棺桶に詰められるならパフェに似た佇まいでと約束の夏

since 2013

新鋭短歌シリーズ

現代短歌の未来へとつながる若き歌人たちの歌は
10代から始まり、その裾野へとひろがり、大きなうねりとなっている。

監修…石川美南、江戸雪、大塚寅彦、加藤治郎、林和清、東直子、光森裕樹、
山田航、内山晶太、黒瀬珂瀾、藤島秀憲、千葉聡、藤原龍一郎

シリーズ全60巻（第1〜5期各12巻）

四六判、並製、本体1700円＋税

01

つむじ風、ここにありますが 木下龍也

978-4-86385-111-5



夕暮れのゼブラゾーンをビートルズみたいに歩きたったひとり
で
自販機のひかりまみれのカゲロウが喉の渴きを癒せずにいる

02

タンジブル 鯨井可菜子

978-4-86385-112-2



さよならって言おうとしたら足許にきれいな刺繍糸があつたの
しのぶれど色に出でにけるわたくしと飲む焼酎はおいしいですか

03

提案前夜 堀合昇平

978-4-86385-113-9



全身が痺れるような提案のキラーフレーズ浮かばぬ夜は
「ナイス提案!」「ナイス提案!」うす闇に叫ぶわたしを妻が揺さぶる

04

八月のフルート奏者 笹井宏之

978-4-86385-118-4

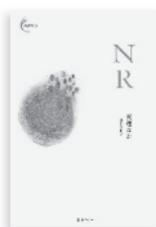


葉桜を愛でゆく母がほんのりと少女を生きるひとときがある
 八月のフルート奏者きらきらと独り真昼の野を歩み进行

05

NR 天道なお

978-4-86385-119-1



こいびとは遠き日曜 電磁波の時雨に濡れてきみはいまごろ
 山間部および都市部はおよそ雨、NRとあるホワイトボード
ノリライター

06

クラウン伍長 斉藤真伸

978-4-86385-120-7



凍て空の流星群にまぎれつつクラウン伍長の火葬はつづく
 ワインラベル剝がさんとしてこの妻はわれの知らざる器具を取り出す

07 春戦争 陣崎草子

978-4-86385-125-2



軽く罪にぎって風の中をゆく さほどでもなき人生をゆく
春の日はきみと白い靴下を干す つま先に海が透けてる

08 かたすみさがし 田中ましろ

978-4-86385-126-9



3階の窓から空に向け飛ばす輪ゴム 神さま僕はここだよ
群れるときわたしは消える図書館の深くに史書の眠るみたいに

09 声、あるいは音のような 岸原さや

978-4-86385-127-6



噴水をつぶつぶのようわたしたち落ちてふたたび噴きあがるみず
波音がやまないのです朝も昼もふつうの顔をつけているのに

10

緑の祠 五島諭

978-4-86385-132-0



物干し竿長い長いと振りながら笑うすべてはいつときの恋
地声から裏声に切り換えるときこんなにも間近な地平線

11

あそこ 望月裕二郎

978-4-86385-133-7



さかみちを全速力でかけおりてうちについたら幕府をひらく
玉川上水いつまでながれているんだよ人のからだをかってにつかって

12

やさしいぴあの 嶋田さくらこ

978-4-86385-134-4



世界には言いたいことがなくなつて雪になれない雨あたたかい
ぴあのぴあのいつもうれしい音がするようにわたしを鳴らしてほしい

13

オーロラのお針子 藤本玲未

978-4-86385-157-3



あなたから生まれる前の夢をみた波打ち際の電話ボックス
人生の謎すきとおる8月の魚の骨のきれいな宇宙

14

硝子のボレット 田丸まひる

978-4-86385-158-0



桃色の炭酸水を頭からかぶって死んだような初恋
けれどまた笑ってほしい今朝虹が出ていたことを告げる回診

15

同じ白さで雪は降りくる 中畑智江

978-4-86385-159-7



まだ青きトマトの皮をむくような衣更えする初夏の雨ふり
レタスからレタス生まれているような心地で剥がす朝のレタスを

16

サイレンと犀 岡野大嗣

978-4-86385-166-5



もういやだ死にたいそしてほとぼりが冷めたあたりで生き返りたい
河川敷が朝にまみれてその朝が電車の中の僕にまで来る

17

いつも空をみて 浅羽佐和子

978-4-86385-167-2



すぐに迎えにきてくれるって信じてた 火星に赤く錆びた自転車
真夜中にレモンをがりりと齧っても私じゃなくて母親のまま

18

トントングラム 伊舎堂仁

978-4-86385-168-9



(屋上の) (鍵) (ください) の手話は (鍵) のとき一瞬怖い顔になる
初恋期略奪事案発生後走行時無呼吸症候群

19 タルト・タタンと炭酸水 竹内亮

978-4-86385-174-0



春の風を掴んで海を渡るとき鳥の瞳は紺色になる
川べりに止めた個人タクシーのサイドミラーに映る青空

20 イーハトープの数式 大西久美子

978-4-86385-175-7



新しいチヨークのやうに立つてゐる分校跡地に残る白樺
逃げ水のやうに消えては浮かびくる今は更地の父母のゐた家

21 それはとても速くて永い 法橋ひらく

978-4-86385-176-4



冬がくる 空はフィルムのつめたさで誰の敵にもなれずに僕は
開かれたままの図鑑の重たさよ虹のなりたち詳細すぎる

22

Bootleg 土岐友浩

978-4-86385-185-6



ライラック思い描けばえがくほどさようならこの手を離れゆく
 てのひらを風にかざしているようにさびしさはぶつかってくるもの

23

うづく、まる 中家菜津子

978-4-86385-186-3



ナボコフを声にしてみるうすあおい舌でころがす氷のかげら
 うづく、まるわたしはあらゆるまるになる月のひかりの信号機前

24

惑亂 堀田季何

978-4-86385-199-3



人間をやめよと言はれあつさりと辞めたる暁はそよぐほかなく
 眼薬を垂してやらむ電球を瞬きもせでにらむ兔に

25 永遠でないほうの火 井上法子

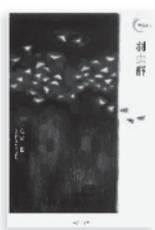
978-4-86385-223-5



どんなにか疲れただろうたましいを支えつづけてその観覧車
月を洗えば月のおいにさいなまれ夏のすべての雨うつくしい

26 羽虫群 虫武一俊

978-4-86385-224-2



生きかたが涙かむように恥ずかしく花の影にも背を向けている
職歴に空白はあり空白を縮めて書けばいなくなるひと

27 瀬戸際レモン 蒼井杏

978-4-86385-225-9



七色のボールペンには七本のばねがあるのでしょね、雨
スポンジにふくませたみずはなびらの切手をまっすぐはるのでしたよ

28

夜にあやまってくれ 鈴木晴香

978-4-86385-234-1



君の手の甲にほくろがあるでしょうそれは私が飛び込んだ痕
悲しいと言ってしまえばそれまでの夜なら夜にあやまってくれ

29

水銀飛行

中山俊一

978-4-86385-235-8



せいねんとせいねん神経衰弱のカードを伏せるときの微風
魔球う魔球う校舎の裏で囁いて、あなたは消えてしまった魔球う

30

青を泳ぐ。

杉谷麻衣

978-4-86385-236-5



爪に残る木炭ばかり気になって完成しない風の横顔
肋骨のケージで飼っている月が膨らんでゆく しゅはり、しゅはりと

31 黄色いボート 原田彩加

978-4-86385-242-6



スプーンを水切りかごへ投げる音ひびき続ける夜のファミレス
行列がなくなり水が腐っても撤去されない黄色いボート

32 しんくわ しんくわ

978-4-86385-243-3



シャツに触れる乳首が痛く、男子として男子として泣いてしまいうだ
真っ白な東京タワーの夢を見た 今年はずかしくなればいいのに

33 Midnight Sun 佐藤涼子

978-4-86385-244-0



見た者でなければ詠めない歌もある例えばあの日の絶望の雪
凍蝶の羽が崩れる 生き返りそうな気がした夜明けの浜辺

34 風のアンダースタディ 鈴木美紀子

978-4-86385-253-2



間違つて降りてしまった駅だから改札できみが待つてる気がする
透きとおる回転扉の三秒の個室にわたしを誘ってください

35 新しい猫背の星 尼崎武

978-4-86385-254-9



蛍だと思った虫とずっといる やっぱり光るような気がして
この道はいつか来た道 ああそうだよ 進研ゼミでやったところだ

36 いちまいの羊歯 國森晴野

978-4-86385-255-6



無いものは無いとせかいに言うために指はしずかに培地を注ぐ
風向きをたしかめる手はおおきくて求めることは悼むことです

37

花は泡、そこにいたって会いたいよ 初谷むい

978-4-86385-308-9



カーテンがふくらむ二次性徴みたい あ 願えば春は永遠なのか
 ふるえれば夜の裂けめのような月 あなたが特別にしたんだぜんぶ

38

冒険者たち ユキノ進

978-4-86385-309-6



誰かの手を離れる風船 世界から失われゆくひとつのかたち
 海図にない島が見つかり朝焼けの波濤を越える海鳥の群れ

39

ちるとしふと 千原こはぎ

978-4-86385-310-2



存在をときどき確かめたくなって深夜ひとりで立つ自動ドア
 距離を置く作戦実行中ですが月がきれいで話がしたい

40 ゆめのほとり鳥 九蝶ささら

978-4-86385-327-0



「ハープとはゆめのほとり鳥の化身です」余命二ヶ月の館長は言う
ドアスコープの魚眼レンズを覗いたら一滴のこの世が見えた
ひとしづく

41 コンビニに生まれかわってしまっても 西村曜

978-4-86385-328-7



レジ打ちの青年ユリ根に戸惑いて何かと思いましたと笑う
コンビニに生まれかわってしまってもクセ毛で俺と気づいてほしい

42 灰色の図書館 惟任将彦

978-4-86385-329-4



窓に星座の映る真夜中本を読むわれもいつしか本と変はりて
最後の力振り絞りたるごと指折り曲げて軍手はありき

43 The Moon Also Rises 五十年同夏

978-4-86385-345-4



一枚の絨毯みたいなパリの夜の光を掬う航空写真
本心もプラシーボだと笑ったら君は全てを閉ざしたシャール

44 惑星ジント 二三川練

978-4-86385-346-1



心さえ無かったならば閉園のしずかに錆びてゆく観覧車
松葉杖で木星を歩く　ここでしか吹けない君のろうそくがある

45 蝶は地下鉄をぬけて 小野田光

978-4-86385-347-8



つめたさのない夏なんてあるものか　さよならの著作権はぼくのだ
君は鳥になっても信号待ちをする枇杷の実ほどの自信を抱いて

46

アーのようなカー 寺井奈緒美

978-4-86385-359-1



改札を通るときだけ鳴く鳥をだれもが一羽手懐けている
耳と耳あわせ孤独を聴くように深夜のバスの窓にもたれて

47

煮汁 戸田響子

978-4-86385-360-7



郵便がカタンと届き昼寝から浮上してゆく振りむけば海
塀越しによくしゃべってた隣人の腰から下が人間じゃない

48

平和園に帰ろうよ 小坂井大輔

978-4-86385-361-4



家族の誰かが「自首減刑」で検索をしていたパソコンまだ温かい
持ちあげたグラスの底におしぼりの袋がついてる愛欲は死ぬ

49

水の聖歌隊

笹川 諒

978-4-86385-445-1



椅子に深く、この世に浅く腰かける 何かこぼれる感じがあつて
手は遠さ 水にも蕊があると云うあなたをひどく静かに呼んだ

50

サウンドスケープに飛び乗って

久石ソナ

978-4-86385-446-8



海の向こう風の休まる土地からの手振れのような写真が届く
吉田さん来てないけれど元気かな無邪気なくせ毛に悩んでないかな

51

ロマンチック・ラブ・イデオロギー

手塚美楽

978-4-86385-447-5



家出少女みたいな謎のメンタリテイ2人でいると文字化けしそうだ
あやかさきまゆみきみほ道の駅から逃げるスタンプにされないように

52

鍵盤のことば 伊豆みつ

978-4-86385-467-3



あなただけ、黄昏。おまへだけ、雪崩。浮世草子をうしろから読む
言葉なるものからだに棲むかぎり祈りの部屋は保たれてゐる

53

まばたきで消えていく 藤宮若菜

978-4-86385-468-0



寝ころんであなたと話す夢をみた 夏で昼で夕暮れだった
生まれ変わったら台風になりたいねってそれから溶ける氷をみてた

54

工場 奥村知世

978-4-86385-469-7



女でも背中に腰に汗をかくごまかしきかぬ作業着の色
実験室の壁にこぶしの跡があり悔しい時にそっと重ねる

55

君が走っていったんだろう 木下侑介

978-4-86385-488-8



目を閉じた人から順に夏になる光の中で君に出会った
海だってあなたが言えばそうだろう涙と言えばそうなんだろう

56

エモーショナルきりん大全 上篠翔

978-4-86385-489-5



アリス お茶もういいよ アリス 泣かないで 薇ほどけば春が終わるよ
っこ って何 生きあいっこするわたしたち朝から氷くちうつしてく

57

ねむりたりない 櫻井朋子

978-4-86385-490-1



母さんの自作だったと後に知るお伽話で燃えていた町
くるぶしは小さな果実 夕闇に熟れゆくきみを起こせずにいる

58

ショート・ショート・ヘアー 水野葵以

978-4-86385-505-2



君の背にロールシャツハが咲いていてそれでも好きと思えたら夏
 スーパーで出くわすような気まずさと夜の校舎のような嬉しさ

59

老人ホームで死ぬほどモテたい 上坂あゆ美

978-4-86385-506-9



母は鳥 姉には獅子と羽根がありわたしは刺青タトゥーがないという刺青タトゥー
 風呂の水が凍らなくなり猫が啼き東京行きの切符を買った

60

イマジナシオン FORON*

978-4-86385-507-6



いづれ夜に還る予約のようである生まれついでの痣すみれ色
 花びらがひとつ車内に落ちていて誰を乗せたの始発のメトロ

深呼吸広場

谷川電話

B6判、並製、112ページ
本体1900円＋税 978-4-86385-523-6



日向 今日わたしはよわい 猫を抱く力があればじゅうぶんなんだ
銀色のコーヒーマイルに抱擁を映そうとして踏んだクッキー

牧野植物園

渡辺松男

四六判、並製、192ページ
本体2300円＋税 978-4-86385-522-9



閉ぢられてある鏡にて白鳥は漆黒の夜をわたりの途中
土佐の牧野植物園へ飛ばしたり日差しとなりてわたしのからだ

感電しかけた話

伊舎堂仁

四六判、並製、120ページ
本体1700円＋税 978-4-86385-511-3



ぼくたちを徴兵しても意味ないよ豆乳鍋とか食べてるからね
その町にいればどこからでも見えるでかい時計の狂ってる町



四六判変形並製

since 2015

現代歌人シリーズ



現代短歌の集大成ともいえる秀れた歌の数々。
後世へと引き継ぐ精鋭たちの歌を収載。



01

海、悲歌、夏の雫など 千葉聡

海は海 唇嚙んでダッシュする少年がいてもいなくても海
部員たちが集まると風の音がする 天の吐息のような、その音



144ページ
本体1900円＋税
978-4-86385-178-8

02

耳ふたひら 松村由利子

耳ふたひら海へ流しにゆく月夜 鯨のうたを聞かせんとして
たまご色の満月ひとつ沈みゆく夢見る蛇の夢の終わりの



160ページ
本体2000円＋税
978-4-86385-179-5

03

念力ろまん 笹谷人

雨ふれば人魚が駄菓子くれた日を語りてくれしパナマ帽の祖父
しやらりと虫取り網で掬いたし古井戸に棲む青き鬼火を



176ページ
本体2100円＋税
978-4-86385-183-2

04

モーヴ色のあめふる 佐藤弓生

はじめての駅なつかしい夏の午後きいたことない讚美歌に似て

天は傘のやさしさにして傘の内いずこもモーヴ色のあめふる

05

ビットとデシベル フラワーしげる

おれか おれはおまえの存在しない弟だ ルルとパブロンでできた獣だ

勇敢であったことなんて一度もない卵をときながら春の朝に

06

暮れてゆくバツハ 岡井隆

言の葉の上を這ひずり回るとも一語さへ蝶に化けぬ今宵は

旧友がひそやかに逝きし二十日のちわが鼠徑部にメスあてられつ



160ページ
本体2000円＋税
978-4-86385-187-0



176ページ
本体2100円＋税
978-4-86385-190-0



176ページ (カラー16)
本体2200円＋税
978-4-86385-192-4

07

光のひび 駒田晶子

なかなか引き抜きにくい釘抜けぬままぬけぬけと都市の明るし
子の髪にこの夏の朝の光あたり耳のうしろに編みこみゆけり



144ページ
本体1900円＋税
978-4-86385-204-4

08

昼の夢の終わり 江戸雪

いちはやく秋だと気づき手術台のような坂道ひとりでくだる
生きるとはゆるされること 梔子の枯れゆくようにわれは病みたり



160ページ
本体2000円＋税
978-4-86385-205-1

09

忘却のための試論 Un essai pour l'oubli
吉田隼人

死んでから訃報がとどくまでの間ぼくのなかではきみが死ねない
永遠は海より盆地の稜線さ溶けゆく太陽だべよ、ランボオ



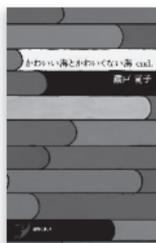
144ページ
本体1900円＋税
978-4-86385-207-5

10

かわいい海とかわいくなつ海 end.

瀬戸夏子

恋よりももっと次第に飢えていくきみはどんな遺書より素敵だ
珈琲を飲み不幸ははじまるますますきれいにめぐる惑星感じて



144ページ

本体1600円＋税

978-4-86385-212-9

11

雨^ふる 渡辺松男

ああ大地はかくも音なく列をなす蟻を殺してゐる大西日
きみ逝きてわれは百歳年とれど生きてゐるかぎりきみにとどかぬ



176ページ

本体2100円＋税

978-4-86385-218-1

12

きみを嫌いな奴はクズだよ 木下龍也

三毛猫が春の小道を横切つて僕のデジャヴに加担している
二階堂ふみと四階堂ふみふみと六階堂ふみふみふみ



144ページ

本体1600円＋税

978-4-86385-222-8

13

山椒魚が飛んだ日 光森裕樹

香煙を射抜く春雨 叶へたき願ひは棄てたき願ひにも似て

婚の日は山椒魚が二〇〇〇粒を飛んだ日 浮力に加はる揚力



144ページ

本体1600円＋税

978-4-86385-245-7

14

世界の終わり／始まり 倉阪鬼一郎

かなしい色だね蒼天に空色の観覧車ゆるゆると上がり

眠れない深夜バスのつれづれに想う世界の終わり／始まり



144ページ

本体1600円＋税

978-4-86385-248-8

15

恋人不死身説 谷川電話

二種類の唾液が溶けたエビアンのペットボトルが朝日を通す

会ったあと送られてきた文章の「海」だけをコピーして海だらけ



144ページ

本体1600円＋税

978-4-86385-259-4

16

白猫倶楽部

紀野恵

円かなる白のかたまりひとつねむる地球の芯に吸ひ付けられて
固き実を結び誰か現はるる待ちつつ星も老いてゆく昼

17

眠れる海

野口あや子

なんてきれいな蓮はちす 半身を横たえるときは髪からたわみはじめて
結いかえて吉祥寺から高田馬場まで会いにゆきたり蛇ゆくごとく

18

去年マリエンバートで

林和清

理解わかりあふといふのは映画のワンカット「水に挿した青い花」など
旅がかさなる夢がかさなる目の前の瀧に記憶の水が落ちる

144ページ

本体1900円＋税

978-4-86385-282-2



168ページ

本体2200円＋税

978-4-86385-276-1



144ページ

本体2000円＋税

978-4-86385-267-9



19

ナイトフライト 伊波真人

雨つぶが道一面を染め上げて宇宙は泡のようにひろがる

六月のやさしい雨よ恋人のいる人が持つ雨傘の赤



144ページ

本体1600円＋税

978-4-86385-293-8

20

はーはー姫が彼女の王子たちに出逢うまで

雪舟えま

歩きまわらずにいらぬ夜がありきしきしとわたしを吊る星よ

ねえつぎはどこに住もうか僕たちはおたがいの存在が家だけど



160ページ

本体2000円＋税

978-4-86385-303-4

21

Confusion 加藤治郎

美しい歌をだれかうたってくれないかコメダのマメを持ち

詩人歌人まっぶたつなりらあらあと朗読の声なか空にある



144ページ

本体1800円＋税

978-4-86385-314-0

22

カミーユ 大森静佳

曇天に火照った胸をひらきつつ水鳥はゆくあなたの死後へ

時間っていつも燃えてる だとしても火をねじ伏せてきみの裸身は

23

としごのおやこ 今橋愛

いきてたらいことがいっぱいあるって／むかしのわたしにいうてやりたい

女ありけり／何かから解き放たれて／息をはきだす／40で やつと／

24

遠くの敵や硝子を 服部真里子

夜をください そうでなければ永遠に冷たい洗濯物をください

灯のもとにひらく昼顔おなじ歌を恍惚としてまた繰りかえす



176ページ

本体2100円＋税
978-4-86385-337-9



176ページ

本体2100円＋税
978-4-86385-324-9



144ページ

本体2000円＋税
978-4-86385-315-7

25

世界樹の素描

吉岡太朗

くちばしがとどかん場所にさしてある青菜みたいなことばはとおいだれひとり殺さずだれにも殺されず生き抜くことができそうですように



144ページ

本体1900円＋税

978-4-86385-354-6

26

石蓮花

吉川宏志

初めのほうは見ていなかった船影が海の奥へと吸いこまれゆく
唐突に人は病むものか ひいらぎの葉のすきまより白花匂う



144ページ

本体2000円＋税

978-4-86385-355-3

27

たやすみなさい

岡野大嗣

写メでしか見てないけれどきみの犬はきみを残して死なないでほしい
もう一軒寄りたい本屋さんがあってちょっと歩くんやけどいいかな



144ページ

本体2000円＋税

978-4-86385-380-5

28

禽眼圖 楠誓英

片側を闇にのまれてそよぐ樹を覗ればかつてのわたくしならん
木の下の暗がりのなか雨をみる禽きんのまなこになりゆく真昼

29

リリカル・アンドロイド 荻原裕幸

わたくしの犬の部分がざわめいて春のそこかしこを噛みまくる
優先順位がたがひに二番であるやうな間柄にて梅を見にゆく

30

自由 大口玲子

子の短歌うたに子のさびしさは歌はれて母として読めばさびしくなりぬ
海暗くあるのみ白き灯台は光の間ひを投げつづけをり



160ページ
本体2000円＋税
978-4-86385-386-7



144ページ
本体2000円＋税
978-4-86385-395-9



168ページ
本体2400円＋税
978-4-86385-435-2

31

ひかりの針がうたふ 黒瀬珂瀾

光漏る方へ這ひゆくひとつぶの命を見つむ闇の端より

言葉を五つ児が覚えたるさみしさを沖の真闇へと流して帰る

144ページ

本体2000円＋税

978-4-86385-440-6



32

バックヤード 魚村晋太郎

ひだまりを汲む井戸がある匿つてくれたあなたのちひさな庭に

まなざしはこころをためす。銀の斧だつたかと訊く水辺のやうに

176ページ

本体2200円＋税

978-4-86385-452-9



33

青い舌 山崎聡子

舌だしてわらう子供を夕暮れに追いつかれないように隠した

君のべろが煙ったように白かったセブンティーンアイスクリーム前

160ページ

本体2100円＋税

978-4-86385-470-3



34

寂しきでしか殺せない最強のうさぎ

山田航

雨宿りやめる決意を君はする止んだのか濡れる気かは知らない
猫の頭蓋骨は小さい 手に収まるくらいの量の春つかまえる
手渡しは危ないからさテーブルに置くよ紅茶もこの感情も



144ページ

本体2000円+税

978-4-86385-527-4

35

memorabilia/drift 中島裕介

信仰を持たないわれも祈りたくなることがあり手で手に触れる
交差点で見せたバレエの一幕の、ほら弾けそうに見えないか、皆
膝裏に力をためて黙る 恩寵として母語、牢獄として母語



160ページ

本体2100円+税

978-4-86385-551-9

永遠よりも少し短い日常

荻原裕幸

四六判変形、並製、144ページ
本体2000円＋税 978-4-86385-537-3



わたくしをすべてひろげて丁寧に折りなほす青い鶴となるまで
三十三間堂あらたまのああこれは市川春子の線だとおもふ

海辺のローラーコースター

加藤治郎

A5判、並製、200ページ
本体2000円＋税 978-4-86385-536-6



定型を証明せよと声がるシマトネリコのしなやかな枝
無数の風が生まれる丘に立っているとこまでもどこまでも夢のなか

前線／救命

犬養楓

四六判、並製 『前線』144ページ 本体1500円＋税 978-4-86385-448-2
『救命』160ページ 本体1500円＋税 978-4-86385-509-0



咽喉をぐいと拭った綿棒に百万人の死の炎見ゆ ほむら

明日それが延命治療になろうとも救命の灯を今日は消さない

ユニヴェール

ユニヴェールとは、短歌の壮大な宇宙。
これからもきっと、新しい歌人との出会いが待っているにちがいない。

01 オワーズから始まった。 白井健康

スクランブル交差点へ足を踏み入れる処刑宣告受けたばかりが
砂山に月の卵をうずめては孵化するまでを春と呼びたい

A5判変形、並製、160ページ
本体2000円＋税 978-4-86385-260-0



02 転生の繭 本多忠義

春の雪記憶に溶けて転生の繭に内から外から触れる
夏雲を映すピアノの夢現その鍵穴をあなたと覗く

A5判変形、並製、184ページ
本体2200円＋税 978-4-86385-261-7



03 ピース降る 田丸まひる

花束を引きずるほどの一日を果ててだれかの夢にとけたい
ほろほろと生き延びてきて風を抱くきみの感情のすべてが好きだ

四六判、並製、128ページ
本体1700円＋税 978-4-86385-263-1



04 スウィート・ホーム 西田政史

四六判変形、並製、144ページ
本体1900円＋税 978-4-86385-273-0

もう何も起きない部屋にかぐはしく腐る洋梨ほどの異変を
耳のなかを水が流れる恐ろしくながい眠りの終はりちかくに

05 曼荼羅華の雨 加藤孝男

A5判変形、並製、160ページ
本体2000円＋税 978-4-86385-274-7

たましひは転調をなしすべりゆく銀河に満ちる時間のなかを
人間といふ百年の水時計 たんじやう 淡青はそのはじまりのいろ

06 ライナスの毛布 高田ほか

四六判、並製、128ページ
本体1700円＋税 978-4-86385-278-5

抱えると重みがふふふふくらますふろくを包みふくらむりぼん
逢える日に一番綺麗になれるよう逆算しながら今日爪を切る

07 揺れる水のカノン 金川宏

四六判変形、並製、128ページ
本体1700円＋税 978-4-86385-301-0

果てしなきわが水の旅ふかき夜をほたるび草に溺れてねむれ
ひるふかく草に溺れて灯るカフェ きみの青淵ぼくの黒暗淵



08 地獄谷 日置俊次

湯気はみな龍ならむその水晶に映るなりわが暗き眼窩が

台北はいつも雨なり雨降ればわがのどはつひに渴きはじめる

四六判変形、並製、160ページ
本体2000円＋税 978-4-86385-336-2



09 音INTERVALLE程 西田リーパウ望東子

美しいフォルテを君にと思ふときわたしの遠いとほいふるさと

さういへば二日あなたを忘れてたさう思ふときあなたを想ふ

四六判、上製、168ページ
本体2300円＋税 978-4-86385-340-9



10 水のために咲く花 宮川聖子

飛べぬことただそれだけで記憶までいらぬというか空にいた日の

ファンタからあふれる泡に蓋をする手のひらの圧ファンタステイック

四六判、並製、128ページ
本体1700円＋税 978-4-86385-356-0



11 ラヴェンダーの翳り 日置俊次

バラ窓の紫が胸にしみてしみて苦しかりけりノートル・ダムよ

あをの時代それはピカソの悲しみのきはみをきざむ闇の色なり

四六判変形、並製、176ページ
本体2100円＋税 978-4-86385-372-0



12 鴉と戦争 朽木祐

戦争がけふの未明に始まった。ふはと鴉の羽根降りかかる
隠喩つて此処つてときに裂けるから手の中の蝶をもう、放せよ

四六判変形、並製、144ページ
本体1900円＋税 978-4-86385-385-0



13 偶然、この官能的な 笹原玉子

みづうみのなかに小さき墓地ありきいづれの世にか呼ばむ「東京」
氷売りが扇売りとすれちがふ橋たつたそれだけの推理小説

四六判変形、並製、160ページ
本体2100円＋税 978-4-86385-397-3



14 パールグレイの瞑想 岡田衣代

口笛が呼んでいるからうす青い朝露くらいに光ってあげる
こいしいと唇くちにのせたら恋しさはカシューナッツのように曲がつて

四六判、並製、160ページ
本体2000円＋税 978-4-86385-400-0



15 西ベンガルの月 須田寛

衣手の露に濡れゆく秋はなく西ベンガルの赤き満月
花を持ち祈りの作法聞くうちに眉間に赤い印塗られる

四六判変形、並製、128ページ
本体1800円＋税 978-4-86385-401-7



16 最初ギリッとふたを開け 佐藤理江

四六判変形、並製、144ページ
本体1900円＋税 978-4-98385-492-5

シヨット缶最初ギリッとふたを開けあとはその都度くるくる回す

真ん中で真っ赤に放射しつづけたむかしの祖国、つばいサイレンだ



17 メビウスの鎖 桜木幹

四六判、並製、144ページ
本体1900円＋税 978-4-98385-502-1

懐妊を医局へ届け出でたればため息まじりの祝福を受く

開始前病名、術式唱えたりミサを行う神父のように



18 青き時雨のなかを 加藤孝男

B6判変形、並製、160ページ
本体2000円＋税 978-4-98385-503-8

今宵ある／頭痛は青き夕ぞらの／しらしらとして／鷺より尖る

眼前の／エスカレーターは止まりいて／恐竜の骨／光る夜の底



19 ゴダールの悪夢 尾崎まゆみ

四六判、並製、176ページ
本体2200円＋税 978-4-98385-530-4

散る花はゆるしてあげる死を語る夾竹桃の紅いくちびる

薔薇窓をみて死にたきと薔薇窓にあの人の声ふはつと浮かぶ



岡井隆の忘れもの

岡井隆

時代の表現者たちを自在に、時にやさしく、時に鋭く読み解いていく。岡井隆の忘れものは、岡井隆の遺言であり、日本語の美しさへのあらゆる賛美である。



四六判、仮フランス装、並製、392
ページ 本体3,000円+税
978-4-86385-533-5 C0095

新装版 幻想の重量

——葛原妙子の戦後短歌

川野里子

戦後短歌の世界に忽然と現れた異形の美。幻視の女王、魔女、黒聖母、ミュータント。こうした呼び名を剥がしつつ迫るその全貌。



四六判、上製、392ページ
本体2,500円+税
978-4-86385-476-5

レダの靴を履いて

塚本邦雄の歌と歩く

尾崎まゆみ

塚本邦雄の短歌をやわらかく、わかりやすい言葉で紐解く、塚本の薫陶を受けた著者ならではの1冊。塚本ファンはもちろん、塚本初心者のお読者にこそ届けたい。



四六判、並製、200ページ
本体1,800円+税
978-4-86385-374-4

めくるめく短歌たち

錦見映理子

「リトルガールズ」で第34回太宰治賞受賞の作家・歌人、錦見映理子の「NHK短歌」好評連載エッセイ「えりこ日記」が1冊の本に。たくさんの歌人たちとの交遊録が、短歌と親しむ日々の魅力をおしえてくれる。



四六判、並製、176ページ
本体1400円+税
978-4-86385-348-5

31 文字の世界

書肆侃侃房短歌カタログ

2023年2月22日発行

株式会社書肆侃侃房

〒810-0041

福岡市中央区大名 2-8-18-501

TEL:092-735-2802

FAX:092-735-2792

<http://www.kankanbou.com>

info@kankanbou.com

印刷 大村印刷株式会社



書肆侃侃房
Shoshikankanbou